

“Society 5.0時代”を主体的に生き抜く「富士見丘の子」

自然豊かな本校の校庭が桜色に染まりました。桜吹雪が美しく舞い、百花繚乱の季節の訪れです。新型コロナ感染症に世界が翻弄され、一年以上の非日常的な歳月が流れる中、季節の巡りによって自然の息吹を実感できることに安堵しております。

さて、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、『新たな社会 Society5.0（5番目の社会）』の到来と言われる時代に突入しました。社会の在り方そのものが、現在とは非連続的と言えるほど、劇的に変わる時代ということです。今、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）を創ることが求められています。

折しも、期せずして、コロナ禍により、社会の大転換が起きました。幕末に詠まれた狂歌に「泰平の眠りを覚ます上喜撰（蒸気船）たった四杯（四隻）で夜も眠れず」があります。令和の今、コロナ禍は、ペリー来航同様、私たちの大きな衝撃を与えました。パラダイム・チェンジの渦中を生きる私たちにとって、今が正念場です。今こそ、私たちは未来をしっかりと見つめ、既成概念に縛られないブレイクスルー的な柔軟な発想を生み出せるように底力を培っていかねばなりません。まずは、基盤づくりです

そのため、今年度の本校のキーワードを、“対話”と“協働”としました。

とりわけ、コロナ禍により、社会が切り離される中、人と人との『つながり』を重視します。子供たち同士、教員と子供、学校と家庭・地域、それぞれが本音で語り合える、風通しの良い雰囲気をつくって参ります。

そして、子供にとっては、**学びの基盤である「言語能力」「情報活用能力」「探究力」**の育成とともに、それを支える認知能力を高め、**自己有用感の醸成**を目指します。

教員は、言葉を通して相互理解を図ることで、子供たちにとって親しみやすく、心を開いて相談できる存在になり、子供たちを守ります。

家庭や地域に対しは、開かれた教育課程の実現を目指し、説明責任を果たし、あらゆる『つながり』を密にします。

すべての大人が協働し、全力で、「自分を信じ、友を信じ、信頼できる社会を切り拓き、創造していく」子供たちを育てて参ります。

人類の未来を創造し、未来を守るのは、今の子供たちです。その子供たちを育てる学校教育は、未来を創る仕事とも言えます。つまり、教育は未来からの負託です。私たち教職員一同は、子供たち一人一人の人格を尊重し、未来社会を担える人材を育てる責務を全力で全うしていきます。『**子供は未来の守護者**』なのです。

“Society 5.0時代”を主体的に生き抜く「富士見丘の子」（学校の教育目標）

人権尊重の精神を基調に、予測不可能な課題に自ら対峙し、協働して未来を創造する社会の一員として、心身共に健康で創造性に富み調和のとれた児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。

- ◎ よく考える子 自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子
- 思いやりのある子 認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子
- 健康な子 基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子
- すすんで働く子 未知の課題を思索し新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子

（ 予測できない変化を受け止め、正面から向き合い、主体的に関わろうとする
未知の課題を思索し、AIには代替できない創造性を発揮する ）